

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 2 部門第 4 区分
 【発行日】 平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公開番号】 特開 2002-36357 (P2002-36357A)
 【公開日】 平成 14 年 2 月 5 日 (2002.2.5)
 【出願番号】 特願 2000-229488 (P2000-229488)
 【国際特許分類】

B 2 9 C 61/06 (2006.01)
B 3 2 B 27/32 (2006.01)
C 0 8 J 5/18 (2006.01)
 B 2 9 K 23/00 (2006.01)
 B 2 9 K 105/02 (2006.01)
 B 2 9 K 105/24 (2006.01)
 B 2 9 L 7/00 (2006.01)
 C 0 8 L 23/04 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 61/06
 B 3 2 B 27/32 A
 B 3 2 B 27/32 Z
 C 0 8 J 5/18 C E S
 B 2 9 K 23:00
 B 2 9 K 105:02
 B 2 9 K 105:24
 B 2 9 L 7:00
 C 0 8 L 23:04

【手続補正書】
 【提出日】 平成 19 年 7 月 27 日 (2007.7.27)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 特許請求の範囲
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 エチレン系重合体樹脂よりなる熱収縮性フィルムであり、下記 (a) ～ (e) の特性を有することを特徴とする熱収縮性フィルム。

(a) 80℃での熱収縮率が、縦方向及び横方向ともに 30%以上であること。

(b) 40℃～160℃温度域での最大熱収縮応力が、縦方向及び横方向ともに 0.49～2.45 N/mm²であること。

(c) 熱収縮性フィルムの引張弾性率が、縦方向及び横方向ともに 147.10 N/mm²

以下であること。

(d) フィルム面積で 30%収縮させた時のヘイズが 5%以下であること。

(e) 熱収縮性フィルムのホットタックシール強度が 0.20 N 以上であること。

【請求項 2】 熱収縮性フィルムに使用される少なくとも 1 層のエチレン系重合体樹脂の密度が 0.855～0.900 g/cm³である請求項 1 記載の熱収縮性フィルム。

【請求項 3】 熱収縮フィルムは架橋されていて、ゲル分率が 10～80 wt %である

請求項 1 または請求項 2 記載の熱収縮性包装フィルム。

【請求項 4】 両表面層、中間層の少なくとも 3 層からなる多層構造を有し、内層に表面層よりも密度の低いエチレン系樹脂を配置したことを特徴とする請求項 3 記載の熱収縮性包装フィルム。

【請求項 5】 架橋した延伸用原反をフィルム構成樹脂の融点以上まで加熱した後に、面積延伸倍率で 4.0 ～ 30.0 倍で延伸することを特徴とする請求項 4 記載の熱収縮性包装フィルムの製造方法。